



広報

大熊町役場会津若松出張所

6月1日発行／大熊町役場総務課 所在地：福島県会津若松市追手町2番41号 ☎フリーダイヤル：0120-26-3844(代)

E-mail：okuma@town.okuma.fukushima.jp／ ブログ大熊町 <http://blog-okuma.jugem.jp/>

大熊町公式ホームページ臨時サイト <http://www.town.okuma.fukushima.jp/>

今月の主な内容

- 中間貯蔵施設の事前調査が行われています ②
- 町のうごき ③
- 市民のひろば ⑤～⑤
- KIZUNAおくまふれあい通信 ⑥～⑩
- お知らせ ⑪～⑬
- 保健だより ⑬
- 町民掲示板 ⑬
- あらかると ⑭

フルーツの香り漂う ロマンの里

おおくま



6

祭りだワッショイ!

—いわき市下矢田地区のお祭りに参加—

2013〔平成25年〕No.491

中間貯蔵施設の事前調査が行われています

現在、環境省による中間貯蔵施設の事前調査が進められています。4月23日および5月17日の両日は、健康増進施設「ふれあいパークおおくま」において、地質調査のための「現地踏査」と「ボーリング調査」が実施されました。

4月23日に行われた「現地踏査」は、①調査の実施地点の特定、②地表地質踏査、③水源等の把握、④道路状況の把握を内容としています。調査員が実際に調査地点周辺を見て歩いたり、斜面地層の地質や岩盤の状況確認、水質を調べるため付近のため池の水を採取しました。

5月17日の「ボーリング調査」は、①地質・地下水位などの把握、②地盤の硬さなどの把握、③試験のための試料採取を内容として実施され、ボーリング機械で地中にパイプを差し込み、土砂や岩石の試料を採取しました。また、ボーリングで開けられた孔は、地下水観測のための井戸とし、地下水位や水中放射線の観測が行われています。

今回は、盛土の締め固めに必要な重機のデータを把握するための「盛土試験」が行われる予定です。

大熊町では、次の7つの項目を
国が責任を持って果たすことを条件に、
事前調査を受け入れています。

- ①「現地調査の受入」＝「施設建設の受入」ではないこと
- ②施設の安全性等の丁寧な説明を行うなど、国が責任を果たすこと
- ③現地調査の取組状況を適時報告すること
- ④ボーリング調査は、地権者の同意を得たうえで実施すること
- ⑤調査終了後速やかに、施設に必要な範囲を明示すること
- ⑥用地の所有者が生活の場に困らないような補償方針を示すこと
- ⑦最終処分についての方針を示すこと



土砂等を採取する調査員



ボーリング調査の様子



あいさつに訪れた井上環境副大臣

井上環境副大臣が調査の
あいさつに訪れました

5月17日のボーリング調査に先立ち、井上環境副大臣は16日、大熊町役場会津若松出張所を訪れ、渡辺町長と面談しました。

井上副大臣は「この調査がひとつのスタートであり、今後も町の意向を伺い、ご協力をいただきながら、しっかりと進めたい」とあいさつしました。

渡辺町長は「線量が高く、復興に向けて課題山積だが、われわれも前に進めるよう取り組んでいく。国も町民の声を聞き、今後の在り方について、しっかりとした検討をして欲しい」と要望しました。

「タブレット型端末」供用開始

「タブレット型端末」供用開始のオープニングセレモニーが4月19日、大熊町役場会津若松出張所で行われました。セレモニーでは、渡辺町長が「タブレットを積極的に活用し、住民同士の絆を再生・強化していただきながら、大熊町復興へのご支援・ご協力をお願いします」とあいさつし、福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センターのタブレット説明会場と結ばれたテレビ電話で、実演を行いました。



タブレット端末でテレビ電話の実演をする渡辺町長



辞令書を受け取る吉田裕彦さん

大熊町監査委員へ辞令交付

大熊町監査委員の辞令交付が4月26日、大熊町役場会津若松出張所で行われ、新たな監査委員に吉田裕彦さんが任命されました。任期は平成25年4月1日から平成29年3月31日までとなります。

スクールバス寄贈

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが5月14日、大熊町役場会津若松出張所を訪れ、大熊町へ児童送迎用スクールバスが寄贈されました。

このスクールバスは、東日本大震災復興支援の一環として寄贈されたものです。

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの金谷直子さんは「保護者や先生をはじめ、教育に携わる方が安心して子どもたちを通学させられるようにとの願いを込めて贈らせていただきます」とあいさつし、鈴木副町長へレプリカキーが手渡されました。

今後スクールバスは、通学や部活動をはじめ、様々な教育活動で有効に活用されます。



金谷直子所長からレプリカキーを受け取る鈴木副町長

健康で楽しく働ける、豊かなまちをつくりましょう。
みんなで助けあい、明るいまちをつくりましょう。
きまりを守り、平和な住みよいまちをつくりましょう。
自然を愛し、きれいなまちをつくりましょう。
進んで学び、香り高い文化のまちをつくりましょう。

フランス料理シェフと 大熊町民とのお花見が行われました

—『ラ・キャラバン ボン・アペチ』のフランス料理シェフ—



シェフから料理を受け取る参加者

フランス料理シェフと大熊町民とのお花見が4月21日、松長コミュニティセンターで行われました。

当日は松長緑道の桜を眺めながらの予定でしたが、あいにくの積雪により急遽センター内でのお花見となりました。

今回、ご支援をいただいた「ラ・キャラバン ボン・アペチ」のフランス料理シェフは、震災後2年に渡り福島県内で26回のキャラバンを行っています。

参加者には、お弁当タイプのフランス料理、ワイン、ソフトドリンクの他、会津地方の郷土料理「こづゆ」が振る舞われました。

その他、フランス人道化師によるパフォーマンスや、シャンソン歌手スブリームさんが歌を披露し、名曲「オー・シャンゼリゼ」を参加者と合唱、曲に合わせて全員でダンスをするなど会場は大いに盛り上がりました。



参加者と歌うスブリームさん

町立大熊中学校で講演会が開かれました

—角山茂章会津大学学長による講演—

会津大学の角山茂章学長による講演会が4月27日、大熊中学校で開かれました。『変化なしの自然はありえない…(マキャベリより)世界に目を向け、困難の中から希望に向かって歩もう』と題し、会津大学と小惑星探査機「はやぶさ」の関係、世界に目を向けた会津大学の取組など、分かりやすく講演され、生徒たちはうなづいたりメモを取りながら、熱心に聞き入っていました。最後に角山学長は、「われわれも教育面で支援しますので、頑張ってください」とあいさつしました。



講演する角山学長

町民のひろば

いわき市下矢田地区のお祭りで神輿を担ぎました

—鹿島町下矢田第一・第二仮設住宅—

いわき市の下矢田地区で5月5日、地区のお祭りが開かれ、鹿島町下矢田第一、第二仮設住宅の子ども9人とその父兄、自治会役員が招待されました。

参加した大熊の子どもたちは、地元の子どもたちと一緒に太鼓を叩いたり、神輿を担いだりして地区のお祭りを盛り上げました。神輿は仮設住宅へも訪れ、地元住民と仮設住宅住民との交流が深まりました。



下矢田地区を練り歩く神輿

いわき市植田本町通り歩行者天国に参加しました

—渡辺町昼野仮設住宅—



サークル「梨の花」のみなさん

渡辺町昼野仮設住宅内のサークル「梨の花」が5月5日、昨年に引き続き植田本町通り歩行者天国に参加し、サークルで製作した籠や人形など、手芸品の展示・販売を行い、訪れたいわき市民と交流し楽しい時間を過ごしました。



KIZUNA おおくまふれあい通信

第2号

東日本大震災と、それに伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故により、大熊町は全町避難を余儀なくされ、私たちは今も、全国各地に分散して不自由な生活を強いられています。

長期化している避難生活、先行き不透明な状況の中で、ふるさと「おおくま」に対してどのような想いを抱いているのか、直接避難先へ訪問してインタビュー取材を行い、本紙に掲載させていただいています。

「KIZUNAおおくまふれあい通信」を通して届けられた想いを共有し、ふるさと「おおくま」と皆さまを「絆～きずな～」でつないでいくことができれば幸いです。

※株式会社鹿島印刷所（南相馬市）の記者が避難先を訪問し、インタビュー取材をさせていただいています。



クリーンアップ作戦



高齢者スポーツ大会

「KIZUNAおおくまふれあい通信」で、あなたの想いを伝えてみませんか？

KIZUNAおおくまふれあい通信では、避難されている皆さまへ想いを伝えていただける方を募集しています。避難先での活動や避難生活で感じていることなど、あなたの想いをこのコーナーでお話してください。大熊町民の方ならどなたでも結構ですので、ご連絡をお待ちしています。

応募先

大熊町役場会津若松出張所総務課秘書広聴係
電話：0120-26-3844 FAX：0242-23-7093
E-mail：somu@town.okuma.fukushima.jp



プール開き



福島県 いわき市

みやもと あきら

宮本 明さん

自宅は熊川地区で津波で被災したが家族は無事。地区に伝わる伝統芸能「熊川稚児鹿舞」代表。津波により舞い道具が一切流出したが、公的支援を受け再び製作するなど、再開に向けて活動を開始。



私は富岡町内で仕事でしたが、地震の発生と大津波警報の発表を受けて急いで自宅に戻りました。自宅に到着すると、一度、地域の集会場に避難した妻が、火の始末が心配だからと戻ってきたところでした。津波の危険があったため、妻と犬を車に乗せ自宅を離れました。途中、集会場に避難していたみなさんに高台への避難をと声をかけて、津波の心配のない地区に住む長女一家のもとに向かいました。

翌朝の避難開始以降、川内村、田村市を経て茨城県内に住む長男一家のもとに向かいましたが町内の病院に入院中だった母の消息が心配でなりません。いろいろなところを探したところ、いわき市内の医療機関を経て、神奈川県秦野市内の病院に収容されたことが分かりました。偶然にも隣の相模原市には弟一家が住んでおり安心しました。

その後、一昨年4月初旬、長女一家は子どもたちの学校再開に伴い、町から指定された避難所の会津若松市総合体育館に向かいましたが、すでに一杯で入ることができず、仕方なく、同市内のアパートに入居しました。当時はまだ借上住宅制度などが無く、最小限の狭い物件を借りざるを得ませんでした。一方、私たち夫婦は、いわき市内で次女一家の住む近

所の借上住宅に移り現在に至っています。

震災前より、私は「熊川稚児鹿舞」の代表をしております。この舞は、諏訪神社の熊川地区に住む氏子の子どもたちだけで長年受け継がれてきました。しかし、避難により地区が離散したり、道具類の一切が津波により流されるなどしてしまいました。避難後しばらくは何もできず途方に暮れていましたが、平成24年に県による無形文化財の調査があり、同年8月には保存会で話し合いの場を開き協議したところ、「伝統を絶やすわけにはいかない」という意見で一致するなど、再開に向けた光が見え始めました。その後、被災した文化財等の公的な復興支援制度を受けるなどして、舞道具の製作を始めたいです。また、舞を披露する子どもたちについては、熊川地区から会津若松市といわき市に避難している子どもたち各2名づつ計4名が参加してくれることになりました。震災前まで舞の練習は、学校の夏休みに集中して行うことも含め頻繁に行われてきましたが、こうした状況では、月に一度程度、会津といわきで交互に練習の場をもつのがせいぜいかと思います。もうしばらく時間はかかると思いますが、諏訪神社で神前奉納はできなくとも、町のイベントなど、皆さんの前で舞を披露することができるように思います。



福島県 会津若松市

むなかた むねゆき

宗像 宗之 さん

自宅は大川原1区で同地区の行政区長をつとめている。現在、仕事の都合等で、本人は会津若松市内、家族はいわき市内の借上住宅でそれぞれ避難生活を送っている。



震災に襲われた時は、間もなく本格化する農作業のため、富岡町内のホームセンターで肥料などを購入していたところでした。地震の揺れが落ち着いたのを見計らって自宅に向かいました。各所で道路が損傷しており、思うように進めませんでした。回りをしながら帰宅できました。

私は行政区長とともに消防団の訓練分団長をしているため、自宅にいた母と妻の無事を確認後、その夜は、町内のパトロールをはじめとする災害救援活動にあたっていました。

翌朝からの避難では、地区の集会場に住民を集めるなど避難バスへの誘導を行っていたため、家族と分かれての移動となりました。避難の途中、家族の所在がわからなくなり、身を寄せている可能性のある避難所を探し回りましたが姿がありません。そんなとき、ある避難所であつた同じ地区に住む知人から、私の家族が親類と共に長野県内に住む姉のもとに向かったと知らされました。すぐにでも向かいたい気持ちはありましたが、支援活動に加わっていることなどもあり、長野に向かえたのは震災発生から1ヶ月以上経過した4月下旬になってからでした。家族が顔を揃え安心できた半面、知らない土地で、仕事も無く、無気力な状

態になってしまった時期もありましたが、その年の11月、私たち一家は会津若松市内に移り、その後、仕事の都合などにより、母・妻・次男の3人はいわき市内の借上住宅に移りました。現在は、避難区域の変更に伴い発足した「見回り隊」に加わり、月に9日間程度従事しています。約2年間、人の営みが無かった我が町はすっかりその姿を変えられてしまいました。人間に代わって、猪などの野生動物、野生化してしまつた家畜などが田畑や屋敷内を荒らし回るといった状況です。

避難開始以降、私をはじめ、家族の体調が優れないことが多くなりました。米寿を迎えた母は、震災前のように近所でお茶飲みもできず、動くことも少なくなるなど避難生活が負担になっているためか、認知症の症状が進行しているようです。

震災まで、私は建築の仕事をしたがら農業もおこなっていました。あのように荒れ果てた故郷の姿をみると、かつてのような生活は難しいと感じざるを得ません。また、避難区域の変更以降、かねてからお付き合いをいただいているお客様の中で立ち入りが可能な地域に建物がある方から、その修理や補修をお願いされるようになり、少しずつですが、仕事を再開するようになりました。

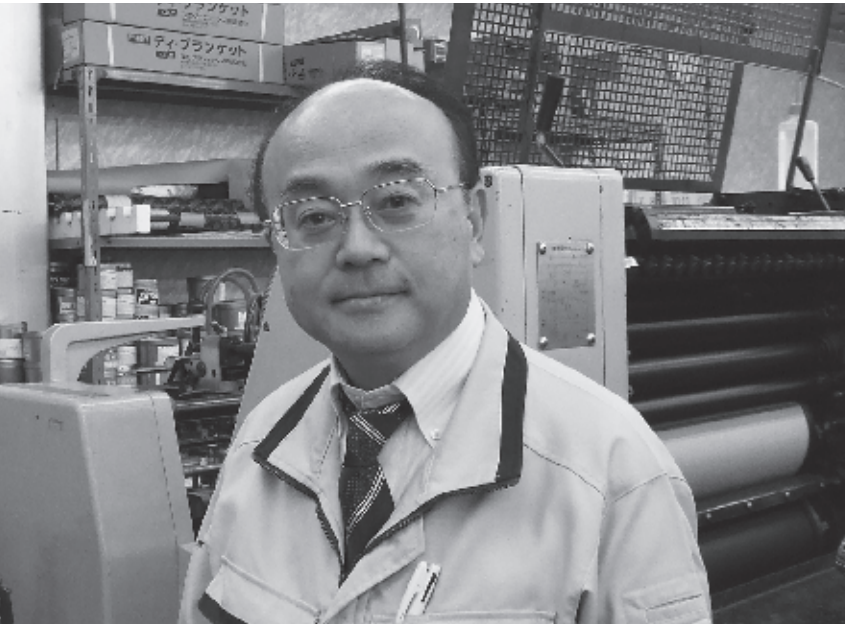


福島県 郡山市

共同印刷株式会社

代表取締役 鈴木充男 さん

昭和61年創業。平成18年より新社屋に移転。創業25年目の被災となった。平成23年9月より郡山市内で本格的に事業を再開した。



被災した年は、十月でちょうど創立二十五周年を迎える年でした。避難により休業を余儀なくされ、社員ともバラバラになってしまいました。全員と連絡が取れ、無事が確認できるまで三週間かかりました。

避難当初はいつ戻れるのかと不安の日々を送っていましたが、日を追うごとに悪化していく原発の状況に失望し、一時は廃業を考えたこともありました。しかし、ある日突然私の携帯電話にお客様から電話が入り「やっと連絡が取れた。無事でよかったです！」と我が事のように喜んでくれたり、「共同さん以外に仕事を頼むところがないんです。何とか再開してください。お願いします！」という言葉を聴いて絶句してしまうなど、言葉に出せないくらい嬉しいものでした。その後も、再開を後押しするたくさんの方の励ましのお電話を頂戴し、また社員からも避難先から事業再開を強く望む声もあり、郡山市での事業の再開を決意しました。その年の五月から郡山市内に事務所を借り、近くに避難していた社員と共に、本格的な事業再開をめざし準備に入りましたが、大熊工場への立入許可がなかなか出ず苛立ったこともありました。

その後、大熊町災害対策本部の皆さんのご尽力により、同七月によく立入許可が出て、大熊から機械の取り出しに成功しました。同九月からの事業再開に向け、避難している社員たちに復職を呼びかけたところ、30名の社員が復職し、何とか再スタートを切ることが出来ました。しかし、本来嬉しいはずの事業再開の日も、戻りたくても戻れなかった人たちを同時に退職扱いにしなければならず、これで関係が切れてしまうのかと思うと複雑で遣り切れない思いでした。

仕事は、すぐに震災前の半分ほどの量が戻り、また、昨年の業績は一年を通して六割まで回復しました。そして、今回「ふくしま産業復興企業立地補助金制度」を活用させて頂き、今年六月末には、市内日和田町の四号線沿いに新工場（建坪四二〇坪）が完成する予定です。

昨年までは「会社の復興」が目標でしたが、新しい工場の完成もあり、今年からは「新しい共同印刷の創造」にシフトしています。

原発事故を受け入れ、前向きに取り組んだことで新しい展開が開けてまいりました。これまで多くの方々からお寄せいただいたご支援に感謝申し上げます。

福島県郡山市柏山町87

電話 024(973)5693

FAX 024(973)5694



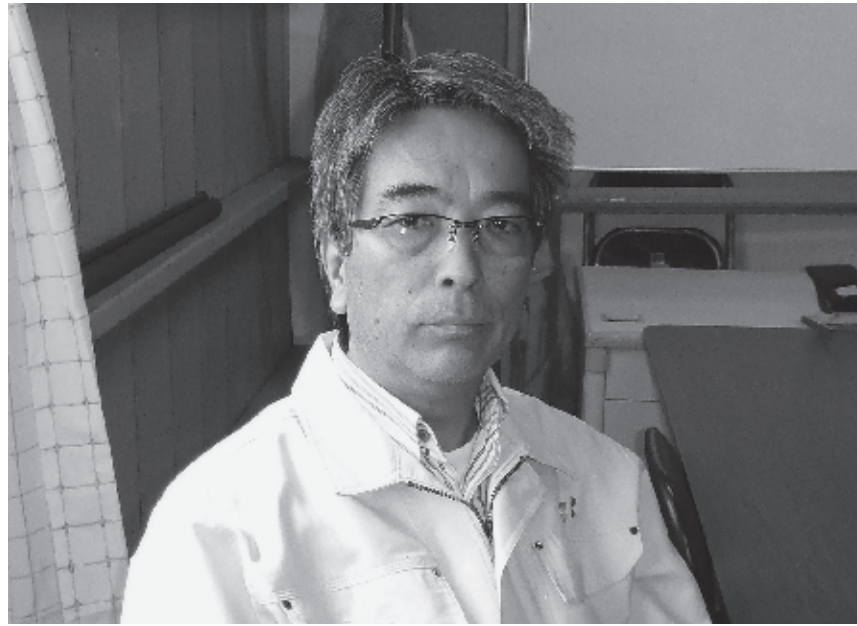
茨城県 日立市

の だ ともひろ

野田 朋弘さん

自宅は熊地区。現在、茨城県日立市内で妻子とともに生活している。

主に茨城県内に避難している方々が集う避難者コミュニティ「積小為大の会」代表。



避難者コミュニティ「積小為大の会」を立ち上げ1年以上が経過しました。茨城県内の関係各方面の協力を得るなどしながら、ほぼ毎月、集いの場を設けています。

私は会社を経営していますが、被災前まで富岡町にありました。震災発生翌日から始まった避難で、当初は、約50人いた従業員と連絡が取れないなどしましたが、従業員たちにとっても、避難にあたってお金がなければどうしようもないと思い、避難後に早速、金融機関で給与振込の手配をしたことを鮮明に覚えています。

私たち一家は、福島・茨城両県の避難所を経て、現在に至っています。また、同市内に事務所を借り、会社の事業を再開しました。避難開始当初はバラバラになってしまった従業員のほとんどは、事業再開とともに戻って来てくれましたが、いわき市内をはじめ福島県内の避難先から、毎朝、高速道路を通り長距離通勤を続けるなど大変な状況の中、頑張ってくれています。

一昨年10月、水戸市内で避難後初めての町政懇談会が開催されました。私を含め県内外から避難している町民が参加しました。当時は、今以上に先が見えない中でした。そんな中、いつまでも被害者

ではいられないと考えコミュニティの立ち上げに至りました。「積小為大」と名づけたのは、自分たちにできることは自分たちでこつこつと行って、帰還の見通しが立たない中でも、気持ちを支えあい前に進んでいこうという願いを込めたからです。立ち上げにあたっての初めての会合には約20名のみなさんが参加し、それぞれが抱える問題や思いなどをぶつけ合いました。初めのうちは、町への帰還を前提として、どうすればいいのかといった話が多かったですが、最近では、震災発生後2年以上経過しても依然として放射線量が高く、町内の大部分が帰還困難区域になっている現状を踏まえて、「現実的に」どうすればいいのかという方向になっています。私たちは原発事故により生活基盤が破壊されたことは事実で、「町を元に戻してほしい」という強い願いはありますが、日々の生活という現実に向き合わなければなりません。しかし、大熊町が故郷であることは、何があっても変わることには無く、新しい土地で新しい生活を始めても故郷への思いが消えることは決してありません。そのためにも、住民である私たちが自ら行動して、建設的で前向きに考え行動する必要性を感じて、仕事の傍ら、コミュニティ活動を続けています。

検査

甲状腺検査会場について

町が公益財団法人 震災復興支援放射能対策研究所と協定締結したことにより、平田村のひらた中央クリニックで、甲状腺検査を受けることができます。

検査の受け方等については、5月1日号でご案内しましたが、会場については次のとおりです。

○検査会場

ひらた中央クリニック

(ひらた中央病院となり)

(福島県石川郡平田村大字上蓬田大隅30)

◆車の場合

郡山市から約40分(あぶくま高原道路平田インターから車で約5分)

◆バスの場合

郡山駅から福島交通バス旧国道経由蓬田行き
降 車・清水内
所要時間:約1時間

お問い合わせ先

大熊町役場会津若松出張所
保健センター

案内

「シルバークッキング」のご案内

今年度もシルバークッキングを開催します。簡単でおいしい料理の実習です。わいわい楽しくにぎやかに!あなたも腕をふるってみませんか。たくさんのおみなさんの参加をお待ちしています。

○1回目

日時 6月21日(金)
午前10時~正午

場所 会津若松市勤労青少年ホーム

※偶数月に年5回開催します。(8月以降の日程については、随時広報でお知らせします)

○内容

簡単!らくらくクッキング(予定) 俺でもできるかんたん丼、あまり物でもまかせる丼 など

○対象

65歳以上の男性

○定員

15名(できれば1年通して受講できる方)

○参加費

実費(300円程度)

○持参物

エプロン・三角巾

○申込み

6月14日(金)まで、電話でお申し込みください。先着順とし、定員になり次第締め切らせていただきます。

お申し込み・お問い合わせ先

大熊町役場会津若松出張所
保健センター

相談

ハローワーク会津
若松からのお知らせ

6月の相談日等は次のとおりです。

◆出張相談会

◇6月14日(金)

○時間 午前9時30分~正午

○場所 松長近隣公園仮設住宅集会所

○相談内容

- ① 求人情報提供、職業相談
- ② 職業訓練情報提供
- ③ ここところからのリラクゼーション

◇6月21日(金)

○時間 午前9時30分~正午

○場所 一箕町長原地区仮設住宅集会所

○相談内容

- ① 求人情報提供、職業相談
- ② 職業訓練情報提供
- ③ ここところからのリラクゼーション

※会津地域以外の求人情報を閲覧希望の方は、事前にご連絡ください

※③のここところからのリラクゼーションは希望により実施いたします

お問い合わせ先

ハローワーク会津若松

(震災特別相談窓口)

☎0242-26-3333

(担当 松尾)

試験

平成25年度 税務職員
採用試験(高校卒業
程度)のお知らせ

仙台国税局では、バイタリティーあふれる税務職員を募集しています。

国の財政を支える税務職員

に、あなたもチャレンジしてみませんか?

○第一次試験日

平成25年9月8日(日)

○受験資格

- ① 試験年度の4月1日において、高等学校又は中等教育学校を卒業した日から起算して3年を経過していない者及び試験年度の3月までに高等学校又は中等教育学校を卒業する見込みの者
- ② 人事院が①に掲げる者と同等の資格があると認める者

○受験申込受付期間

【インターネット申込み】

平成25年6月24日(月)から7月3日(水)

【郵送・持参申込み】

平成25年6月24日(月)から6月28日(金)

お問い合わせ先

人事院東北事務局

☎022-221-2022

仙台国税局人事第二課

☎022-263-1111

内線3236

「経営所得安定対策」受付のお知らせ

これまで実施されてきた「農業者戸別所得補償制度」は、平成25年産の作物から「経営所得安定対策」となりました。基本的には、これまでと同じ枠組みで実施されます。

避難先において新たに農地を購入または農業委員会経由で農地を借用して営農を再開し、対象となる作物を作付け予定の方は、大熊町役場会津若松出張所産業建設課へお問い合わせください。

受付期間 6月3日（月）～6月28日（金）

受付場所 大熊町役場会津若松出張所 産業建設課

■ 畑作物の直接支払交付金

【数量払】（水田・畑地共通）

対象作物	交付金額	対象作物	交付金額
小麦【水田・畑地】	6,360円／60kg	てん菜	6,410円／トン
二条大麦【水田・畑地】	5,330円／50kg	でん粉原料用ばれいしょ	11,600円／トン
六条大麦【水田・畑地】	5,510円／50kg	そば【水田・畑地】	15,200円／45kg
はだか麦【水田・畑地】	7,620円／60kg	なたね【水田・畑地】	8,470円／60kg
大豆【水田・畑地】	11,310円／60kg		

■ 水田活用の直接支払交付金（下記以外にも対象作物がありますのでお問い合わせください）

対象作物	交付金額
麦、大豆、飼料作物	3.5万円／10a
米粉用米、飼料用米、WCS用稲	8.0万円／10a
そば、なたね、加工用米	2.0万円／10a

■ 米の直接支払交付金

【米の生産数量目標を守った農業者が対象】 1.5万円／10a

【お問い合わせ先】 大熊町役場会津若松出張所 産業建設課





保健だより

『育児相談会』のご案内

今年度も『育児相談会』を開催します。
初めての方、昨年度より参加の方、皆さんで楽しい時間を過ごしましょう。皆さんで自由に話しませんか？妊産婦の方の参加も歓迎いたします。

日 程	内 容
平成25年	7月11日(木) *受付時間 10:00～11:00 *場 所 会津若松市河東保健センター (会津若松市河東町郡山字休ミ石14)
	9月19日(木) *対 象 者 就学前の乳幼児と保護者、妊産婦 *内 容 身体計測、育児相談、栄養相談、歯科相談、身体相談、親子遊びなど
平成26年	11月14日(木) *持 参 物 母子健康手帳、オムツ、ミルク、着替えなど育児に必要なもの。バスタオル(ベビーマッサージ希望の方)
	1月16日(木) *ス タ ッ フ 保健師・看護師・栄養士・保育士・臨床心理士・助産師・歯科衛生士・会津相談支援専門職チーム
	3月6日(木)

※申し込みは不要ですので直接会場においでください。
※相談ご希望の方は受付時に申し出てください。

【お問い合わせ先】

大熊町役場会津若松出張所 保健センター

「大熊町ほっとルーム」開室のお知らせ

子育てや学校のこと、子どもに関わる想いや悩みを共有し、無理なく「顔晴る」ことができるようお手伝いさせていただく場所として、大熊町役場会津若松出張所2階に「大熊町ほっとルーム」を開室しました。



「子育てについて相談したい」「子どもの様子が何となく気にかかる」「学校に行くのが辛い」「家族について相談したい」「子どもの身体が心配」「勉強がわからない」等、子どもに関わって気になることや困っていることがありましたら、お気軽にご相談ください。子ども支援コーディネーターが相談窓口となり、必要な関係者や関係機関につないでいきます。

場 所	大熊町役場会津若松出張所2階 (旧大熊中学校保健室)
開 室 日	毎週木曜日
開 室 時 間	10:00～16:00
相談電話番号	0242-23-8261
ス タ ッ フ	子ども支援コーディネーター スクールソーシャルワーカー

※大熊町役場いわき連絡事務所にも「大熊町ほっとルーム」を8月中に開室する予定ですので、準備ができ次第お知らせします。

【お問い合わせ先】大熊町役場会津若松出張所 教育総務課

町民掲示板

埼玉県へ避難している皆さんへ

輪になろう!ふみ出そう!『ひまわりの会』

- ◆日 時 6月20日(木)
10:00～12:00 おしゃべりサロン (親睦・情報交換等)
12:30～15:30 アートセラピー
- ◆場 所 やすらぎ会館(川口市南鳩ヶ谷6-8-16)
- ◆参加費 200円

【お問い合わせ】 ひまわり ☎080-4920-4931

茨城県に避難の大熊町のみなさんへ

大熊町避難者コミュニティ「積小為大の会」のご案内

6月の定例会は以下の通り開催します。

- ◆日 時 6月22日(土) 9:00～12:00
- ◆場 所 社団法人茨城県産業会館(水戸市桜川2-2-35)
- ◆駐車場 産業会館の駐車場をご利用ください
- ◆内 容 弁護士による種々の法律勉強会および個人相談
- ◆その他 町民同士の情報交換

【お問い合わせ】

野田朋弘(日立市) ☎090-8423-5608
Email: tomohiro-n@higashi-t.com

おくやみ申し上げます

死亡者名	年 齢	住 所
2013年(平成25年)3月		
堀 川 マ キ	74 歳	南 平
佐 藤 祐 禎	83 歳	高 平

死亡者名	年 齢	住 所
2013年(平成25年)4月		
吉 田 義 貞	87 歳	秋 葉 台
泉 田 君 江	74 歳	大 野
五十嵐 孝 次	86 歳	大 野
織 田 清	85 歳	向 畑



バサースト市の高校生が大熊中学校などを訪問

姉妹都市であるオーストラリア・バサースト市からの訪問団が4月21日、会津若松市を訪れ、ワシントンホテルでおおくま国際交流協会による歓迎会が催されました。訪問団はバサースト市の高校「デニソンカレッジ」の生徒18人と関係者5人で、歓迎会では協会員による日本舞踊が披露されるなど、大変盛り上がりしました。

翌22日には大熊中学校を訪れ、1～3年生の各教室に分かれて授業を体験しました。授業では、習字や折り紙、けん玉など、日本の文化を体験しました。四苦八苦しながらも協力して出来上がった作品に、生徒たちからは歓声が上がっていました。



バサースト市訪問団と国際交流協会員の皆さん



歓迎会の様子



折り紙の鶴に喜びの笑み



習字に苦戦

大熊中学校へ図書寄贈

「東北を支援する日野市民の会」の代表者3名が4月25日、大熊中学校を訪れ、図書300冊と図書券を寄贈しました。この会は、東京都日野市のボランティアの方が、東北の被災地を支援するため活動しているものです。会津若松市と日野市は災害時相互応援協定を締結していることから、震災時、会津若松市に避難した大熊町民を支援した経緯があり、今回の寄贈が実現しました。

会のメンバーで歌手でもある岩崎愛子さんから、鹿山裕二教務主任へ図書券が手渡され、同会の峯岸弘行事務局長からは「頑張れ東北、負けるな大熊」という熱いメッセージをいただきました。



図書券を手渡す岩崎さん（右）



「東北を支援する日野市民の会」のみなさん